



善正寺だより

掲示板法話

闇は光を知らざれど

光は闇に入りたもう

九月二十七日の正午前、突然御嶽山が噴火しました。秋晴れの土曜日・お昼前、紅葉の美しい御嶽山に沢山の登山客が訪れていました。夫婦や親子、気の合う仲間同士でお昼ご飯を食べようとしていた矢先の悲劇が襲いました。夫婦でも生死を分けた人がいます。「お父さん、大丈夫？」と声をかけた奥さんが一瞬後に亡くなっていた。激しく飛んでくる噴石から身を守りつつ生き残ったご主人の心の傷はどれほど深いのか、想像もできません。一緒にいても生死が別れるこの厳しい無常。まさに一寸先は闇。他人事ではありませんね。

こんな時、私たちはどう受け止めたらいいのでしょうか？

「独り来て独り去る。一人として随うもの無し」というお釈迦様の言葉が身に染みますが、「お前はどうか？」と問われれば、言葉もありません。ただ黙って手と手を重ねる。そこに、涙が一滴、また一滴とこぼれる。そんな間柄ならば、無言のうちにも心寄り添う世界が生まれるのではないだろうか？闇のような心に光が届いて心開



(木村無相)



かれ、大悲の光に育てられて、必ず「死の意味」、「生き残った意味」が見えてくるのではないのでしょうか？

私どもの寺の境内に「闇去明来」(闇が去って明かりが来る)と書かれた灯籠が参道を挟んで左右一対建っています。実はこれは仏教の教えからすると上下逆で、「明来闇去」(明かりが来て闇が去る)と書かれるべきだったと亡父から聞きました。灯籠を建立するに際して、その時の住職(義祖父)が二枚の半紙に分けて書いて工事業者に渡したため、上と下を間違えて灯籠に掘ってしまったのだそうです。

だが、九十年以上前のご先祖のミスは、「大慈大悲の如来さまが先手を打って一如というお覚りの世界から智慧の光となって、闇夜にさ迷うこの私に働きかけて下さっているのだよ」というご先祖の声のようでもあります。

先日広島の法友Tさんから、お慕いする先生が臨終の前に「いい人生じゃった。ありがとう」「真宗の教え(すくい)は言葉じゃない。動詞じゃぞ」と遺言されたとメールで送って下さいました。そのTさんは、「観無量寿

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:0593-31-1670
☎:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

☆報恩講

講師 大島信隆先生 (岸和田)

※11月2日(日) 午後1時半

夜6時半 (親鸞様ご生涯、音楽法要、琴演奏等)

お非時(午前11時より12時) 手作り料理をどうぞ!

3日(月・祝) 午前10時

午後1時(主催) 三全仏教婦人会「報恩講」

◇キッズサンガ 11月8日(土)午後4時お経ゲーム、鐘つきは毎夕5時年中無休、ご褒美のガムあり、お友達と一緒に!

◇三重組コーラス 11/22本山『御堂演奏会』バスで参加
善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報が閲覧。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が大好評。寺の日常を公開、開設6年3か月で15万4千訪問、コメント、悩み相談、大歓迎!

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454へ電話

☆秋勸進 11月23日(金・祝) 午前8時より

行事さんが手分けして巡回、ご協力よろしくお願ひします

☆お内仏報恩講 12月6日(土) 夜7時半より 庫裏で

音楽法要、ぜんざい、酒食用意、お誘い合わせてどうぞ!

※親鸞聖人750回大遠忌法要、平成28年5月15日に決定!

ご法要まで後1年7か月に迫りました。稚児募集開始!

「経」に出てくる王舎城のアジャセ太子を自分自身だと受け止め、「我こそアジャセなり」と言われました。「自身自身が闇の主人公だ」と自覚され、「知らせずにおれぬ」と行動ある念仏者の姿を示して下さったのです。最後に「みほとけ」という詩をご紹介します。

やみはひかりを しらざれど ひかりはやみに いりたもう

そのみひかりの みほとけを ナムアミダブツと よびまつる

(木村無相『念仏詩抄』より)

お悔やみ申し上げます
★森圭三様(9月27日亡・41歳)合掌

今月の写真アラカルト



お姉ちゃんと一緒に!



親ガメの上に子ガメ?



ボクお経大好き!

坊守スケッチ

ああ、

認知症！



四人に一人が高齢者の時代。新聞では、連日認知症の記事を目にします。男性の平均寿命が80歳、女性も86歳を超えました。しかし健康寿命はそれよりも短く、介護が8年以上必要な状態になります。一番深刻な問題が認知症。本人は勿論のこと、家族にとっても辛いことです。しかし早期発見、早期治療をすれば、在宅で過ごすことができます。国立長寿医療研究センターの遠藤英俊医師は、「家族の気づきが早期発見の鍵。次の症状が三つ当てはまれば、すぐに専門医に相談して下さい」とアドバイスしています。

- 1、何度も同じことを言ったり聞く
 - 2、ものの名前が出てこない
 - 3、慣れた場所でも道に迷う
 - 4、好きなことに無関心になる
 - 5、置き忘れ、しまい忘れが目立つ
 - 6、「財布を盗まれた」と騒ぐ
 - 7、日課をせず、だらしくなる
 - 8、暴言を吐いたり、怒りっぽくなる
 - 9、時間や場所の感覚が不確か
 - 10、夜中に急に起きたして騒ぐ
- 以上十項目。私は二番目の物忘れが引掛かります。皆さんは如何ですか？ある女性の認知症の始まりは、「匂いが分からない。料理作りもつまらない」の一言でした。五感が働く生活は脳の活性化には必要不可欠です。そのうち趣味のサークルにもついていけなくなり脱会。友人は誘い出そうと努

力しましたが、引きこもり状態。他人に攻撃的になり、ついに遠方の娘の嫁ぎ先に引越すことになりました。年老いて、住み慣れた場所から、急に環境が変わるのは辛い現実です。

また別の高齢者は、最近一人暮らしも不安になってきた矢先でした。定年退職した息子夫婦が故郷に戻って行くことになりました。これからは息子達がサポートしてくれると、一瞬喜びました。しかし現実には甘くはなかった。「お母さん、そろそろ探しに行こうか？」「何を？」「お母さんが入る老人施設だよ」息子の言葉にがっかり！「今は自分の家で老後を迎えられない時代ですね」と嘆いてみました。それに対してしっかりと信じて、老いの生活を律している方がいます。

「早朝お寺まで歩いて、本堂に向かってお参りするのが日課。私のリハビリになり修行です」と言われました。雨や風でも、真冬や真夏でも通われます。私が散歩する垂坂山にも見習うべき仲間が大勢います。自然の中で五感を働かせ、出会う人々と元気に挨拶。伊勢湾を見渡す中でラジオ体操。認知症予防には最適な場所です。万一認知症になっても早めの治療と規則正しい生活習慣、周囲のサポートがあれば、乗り越えられる病気だと思います。

☆新連載企画コーナー

若院夫婦の「育自な毎日」



皆さん、初めまして！ここでは、お寺の子育てや、親になって初めて分かったことの中から、印象に残ったコマを記していきたいと思えます。

ところでこのタイトルですが、息子が生まれてから「育児」をしているつもりが、いつの間にか精神的にも肉体的にも鍛えられ、実は「育自」されていることに気づいた・・・という思いからつけました。そして、この記事が皆さんのところに届く頃には、「もう一人」私たちを逞しく「育自」してくれる子が増える予定。今は心の準備をしているところです。

育児中の方、育児は遠い昔の方、孫守り中の方・・・いろいろとご自身の育児を思い浮かべながら読んでいただけたら、と思います。どうぞ、よろしくお願ひします！（潤爾・由佳）

☆寄稿

姫路市 釈 貞 芳

☆寺参り 世帯持ったら 連れ立って 家族皆が 微笑み暮らす

Eさんのいいもの紹介

☆老いも 若きも みんな 同い年

(博多の仙厓和尚)

※人間の寿命は老少不定。一寸先は闇。御嶽山の火山噴火はそのことを私達に教えてくれました。誰しも今生かされていくことに感謝して生きよう！

カンパありがとう

小口あき子様、他匿名様よりお志、切手などを頂戴しました。

三重組観劇ツアー緊急募集！

前進座「如月の華」九條武子物語

時・平成27年1月28日(水)午後 所・名古屋 中日劇場

参加費・1万2千円(チケット代・弁当代) 当代。バス代、保険含む

※各寺院10名程、先着順にて受付定員(三重組全体で300名)になり次第締め切り。観劇希望者は代金を添えて至急各寺までお申込み下さい。

ホトトギス

☆10月1か月間、百五銀行阿倉川支店『第4回善正寺門徒展』は大好評で来年も出品依頼。11月2日・3日の報恩講期間中は本堂の南に展示します。引き続きご鑑賞下さい。今年作品を展示された方のお名前は次の通り。伊崎頭次様(伊勢型紙3)、稲垣新吉様(写真2)、川崎光子様(刺繍絵1)、釈妙水様(布絵3、書画1)、服部雅之様(水彩画4)、服部睦子様(書3)、平井正喜様(写真3)、◇児童書…有賀虎輝君、川崎紗矢さん、鈴木健太郎君、十亀希空さん、服部晃希君、服部翔君、服部陽向さん、森駿太郎君◇若院(書)、若坊守(書)、住職、坊守(写真)…力作の展覧有難う(50音順)

☆編集子より

「善正寺だより」二五二号をお届けします。◇台風、火山噴火など相次ぎました。だが親子殺人、孤独死など、いのちの危機もいよいよ深い。◇不安と苦悩深き時代。拙寺報二十二年目の新連載企画「若夫婦の『育自な毎日』」、「愛読下さい。ご意見もどうぞ。合掌

御嶽山の噴火で戦後最悪の数の犠牲者がでました。寸前まで山頂でお弁当を広げ秋の景色を楽しむ登山者。火山灰や噴石が降り注いでもシャツを押し続ける人。一体誰が数分後に死の危険が迫っていることを予測できたでしょうか。出産予定日は予測できませんが、死亡予定日は誰も予測できません。遺族の悲しみは如何ばかりかとお察し申し上げます。「この現実を仏教徒としてどう受け止めたらいいの？」と在職に尋ねました。「決して他人事ではなく、自分の身に起すもおかしくない厳しい現実を受け止め、今の今を感謝して生きることだよ」と返答、言葉では分かっていても日常生活の煩雑さに紛れて忘れてしまいがちなことです。昔の人は何でもお仏壇に供えてから頂き、家族や親族が定期的に集まるお参りする習慣がありました。子供達はそういう仏教的雰囲気の中で育てられました。今はどうでしょうか。仏壇は閉められたまま、いやそういう集まりの場さえ失われから、生涯自分の楽しみを追い求めることに終始していきす。「寺に参る何の得がある？」と尋ねられますが、捐得の問題ではあります。温かい心は互いに拝み合う家庭から育ちます。仏教は言葉だけで伝わりません。行動で示してこそ伝わります。先ず私自身が行動でお手本を示して、子供達に伝えよう。十一月二日三日には「報恩講」があります。聴聞の絶好の機会です。ご家族お誘い合せてお参り下さいませ。

平成二十六年十一月 合掌 善正寺坊守 拝